

【B グループ】

これまでの検討内容から想定されるシーン
(パース)

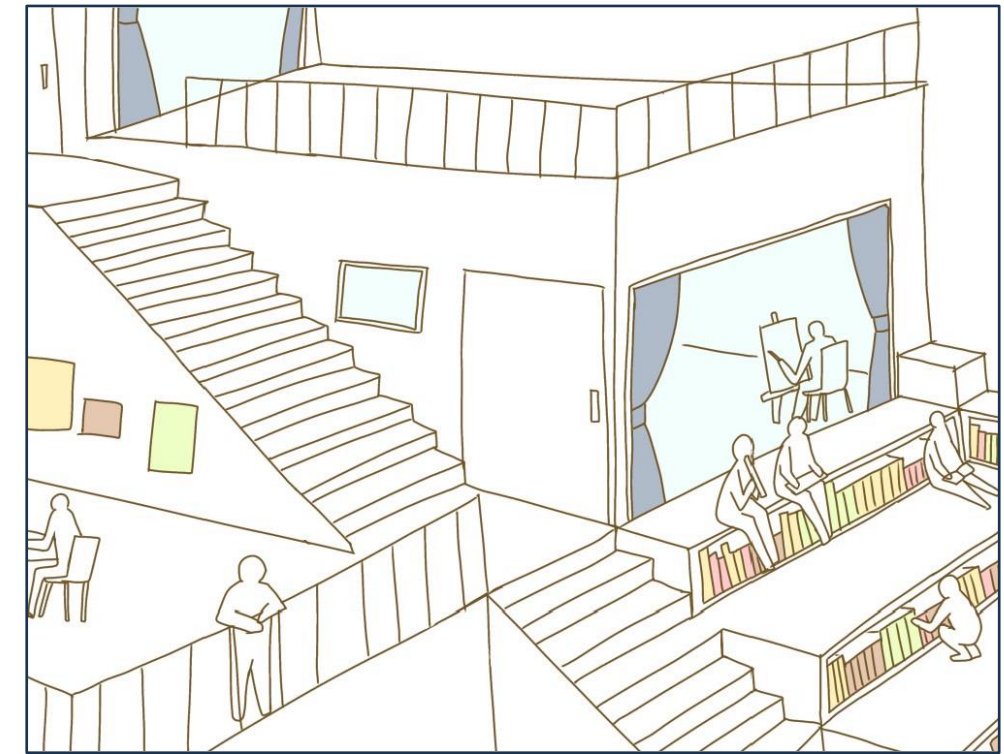
これまで第3回・第4回検討会でふくらませた活動や空間のイメージから、想定されるシーンについて例示します。

これらを基に、今回のディスカッションでは、「新文化ホールで行いたい活動」と「その活動を行うための空間のアイデア」について深めましょう。



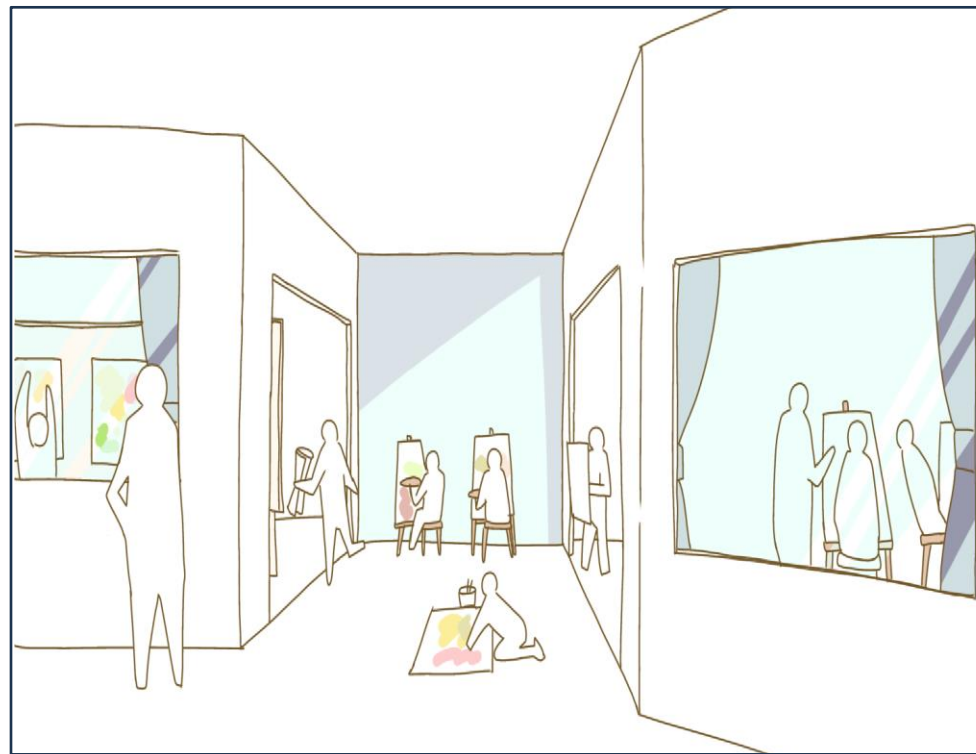
■外から際立って見える活動

諸室の配置や開口の操作によって、外から見える活動は、目立たせることも、さりげなく見せることもできる。市民の活動が外からも見えることは、施設の表情を生き生きとさせることにつながり、市民の気軽な来訪やにぎわいの創出が期待できる。



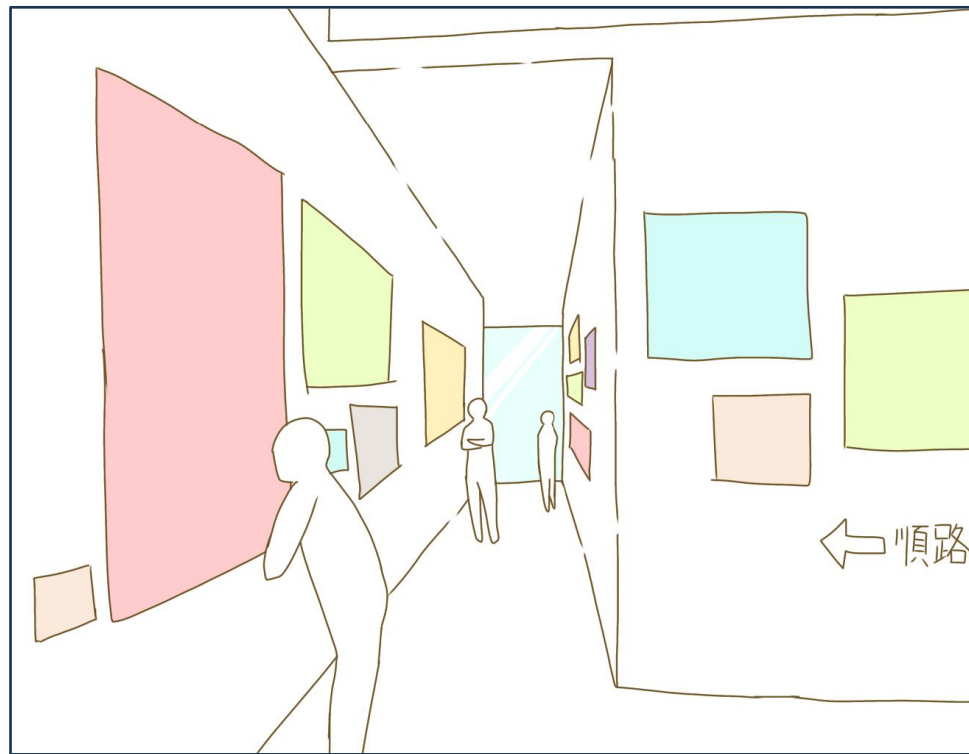
■上下階のつながりが生み出す活動

吹き抜けや階段などで上下階のつながりは、見上げや見下げ、着座や佇立、近くや遠く、ちらっとやじっとといった様々な「見る・見られる」の振る舞いを生む。上下階の移動と市民の活動の関係性を豊かに作り上げると、文化交流の拠点ならではの滞在活動が生まれる。



■共用スペースにあふれ出す活動

諸室の配置を共用スペースとともに考えることで、諸室の内外に市民の活動があふれ出し、共用空間がにぎやかになる。市民の活動が共用スペースで生き生きと展開されるようになると、活動間の連携や新たな交流が生まれていく。



■移動が楽しくなる活動

移動と共に行える活動があると、施設に回遊性が生まれ、施設全体を楽しむことができるようになる。廊下のようなスペースでも、幅や位置、諸室との関係性を工夫すると、共用空間に新しい活動が生まれる。



■開放的な場所でできる活動

外部に開かれた場所は、居心地の良い滞在や活動に特別感をもたらす。子どもの遊び場にもなる開放的な場所が施設にあると、敷地内外に賑やかな活動や滞在が生まれる。